

# 再び事故が起これば、被害は計り知れません

2011年3月11日の東京電力福島第一原発事故により、原発でひとたび事故が起こると、戦争や大災害と同様に私たちの暮らしを根こそぎ奪ってしまうことがわかりました。ところが、安倍政権は次々と原発を再稼働しています。各地の原発には問題が山積みです。電気を生み出す手段にしか過ぎないものに、暮らしを脅かすほど危険な原発を選ぶ必要があるのか、もう一度考えてみましょう。



## 稼働

### 佐賀県 玄海原発

離島住民は置き去りに！  
30km圏内に離島住民は約1万9,000人。事故時に荒天であったり津波の恐れがあれば、逃げる手段がありません。橋が1本しかない島もあり、そこで暮らす住民は約7,000人。玄海町以外のこれらの人々の声は無視されています。また、玄海原発の使用済み核燃料を保管する貯蔵プールの空き容量はぎりぎりです。3号機は再稼働から3年、4号機は7年で満杯になります。

## 稼働

## 稼働

### 福井県 大飯原発 / 高浜原発

14基がひしめく密集地帯で事故は連鎖する！？  
「地震の揺れの強さを表す関西電力の計算手法は過小評価の可能性がある」と専門家が指摘しています。ところが、原子力規制委員会はこれを無視して、「安全対策が新規制基準に適合する」と認めました。若狭湾沿岸には14基もの原発が集中しています。このうち1基でも事故を起こせば、一帯に連鎖し、人口密集地の大阪を始めとする関西地域のおよそ1,450万人の水瓶である琵琶湖が汚染されてしまいます。

2011年以降稼働した原発

福島第一原発は廃炉決定  
第二原発は廃炉に向け検討中



## 稼働\*

### 愛媛県 伊方原発

最悪の場所に建つ

伊方原発は、九州～四国～関西に横たわる日本最大の「中央構造線断層帯」からわずか8kmほどの至近距離にあります。阿蘇カルデラ噴火時に火砕流が到達した痕跡もある極めて危険な立地です。しかし、南海トラフ地震の地震規模や津波の想定は甘く、ひとたび事故が起きれば、瀬戸内海は放射性物質であふれて「死の海」と化し約3,500万人の食糧に重大な影響を及ぼします。

\*注：広島高裁が「(熊本県)阿蘇山からの火砕流到達可能性が低いとはいえない」として2018年9月まで運転停止を命じる決定をして停止。

せんだい

### 鹿児島県 川内原発 稼働

危ない火山とずさんな九州電力

始良カルデラは巨大噴火を起こす可能性があります。噴火によって火砕流が核燃料2,000体に到達すれば、破滅的な被害をもたらします。しかし、実効性のある避難計画など作れません。また、九州電力は、再稼働の条件であった「免震(揺れを低減)構造」の緊急時対策所(免震重要棟)を設置する約束を破り、コスト削減のため「耐震(揺れる)構造」に変更してしまいました。

# FUTURE

## 原発のない社会は、私たちの意思でつくれます

世界の発電量のうち自然エネルギーはすでに24.5% (GSR2017) に達しています。2040年ごろには40%になるとされ、世界は自然エネルギーへ急速にシフトしています。太陽光発電コストは2010年からの7年間で73%削減され、2020年までにはさらに半減する可能性があります。火力発電より安くなるとすら予測されている自然エネルギーは、すでに経済的な選択なのです。私たちの代で危険でコストの高い原発を終わりにし、自然エネルギーの夢のある未来を選びましょう。